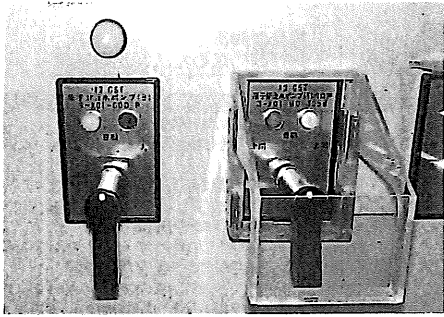


第一原発 人為ミス冷却一時停止

3号機原子炉燃料デブリの注水

東京電力は五日、福島第一原発3号機の溶融燃料（燃料デブリ）を冷やすための水を原子炉内に送るポンプが人為的ミスで止まり、注水が約一時間にわたり停止したと発表した。人為的ミスでの注水停止は初めて。これとは別に、3号機の使用済み核燃料プールでも冷却機能が約六時間半にわたって止まった。県は重要設備の相次ぐトラブルを深刻視し、速やかな原因調査と再発防止の徹底を東電に申し入れた。



作業員が誤って切った注水ポンプのスイッチ（左側）＝東電提供

2、3号機使用済み核燃料プール 6時間半停止

東電によると、五日午前十時二分、3号機原子炉の注水ポンプの停止を知らせる警報が出た。同十時五十九分に別のポンプを起動させ、一分後に燃料デブリの冷却に必要な注水量を満たしていることを確認した。注水停止の前後で原子炉底部の温度や周辺のモニタリングポストで計測される放射線量に目立った変化はなかったとい

ころ、プールの水を冷やす循環冷却設備のポンプで水圧の低下を示す警報が鳴った。周辺を調べたところ、循環冷却設備につながる配管の弁が開いており、水が漏れている

た。弁を開き、周辺の機器に不具合がないことを確認し、五日午前五時三十分、プール

の冷却を再開した。弁は配管内の空気を抜くための設備で、通常は閉まっている。東電は弁が開いていた理由について「四日午後男性社員が付近を巡回した際、誤って弁に

触れた人為的ミスの可能性が高い」とした。2、3号機のプール

は水温は冷却の停止前後で最大〇・五度上昇し、一八・七～一九・八度となったが、運転管理上の制限値である六五度までは余裕があったとしている。

福島第一原発で冷却機能が停止するトラブルが相次いだことを受け、県内の原発立地町の各首長は「住民の帰還意欲に影響する」として、再発防止を強く求めた。

住民帰還への影響心配

立地地域 町長

「安全の根幹脆弱」

県、東電に改善申し入れ

福島県は第一原発で起きた二件の冷却機能のトラブルについて、県からは「廃炉の大前提となる安全確保のための機能があまりにも弱い」と指摘する声が上がった。十一月の地

震によりの福島第二原発3号機で使用済み燃料プールの冷却機能が停止したことも踏まえ、県は東電に安全への意識の向上を改めて求めた。「簡単に注水が止ま

っている。安全の根幹となる冷却システムの脆弱（せいじやく）さは問題だ」。福島の原子力規制委員会に申し入れをした。

田舎安全責任者会県庁に呼び、問題を繰り返して指摘した申し入れをした。

福島第一原発第一原3号機原子炉注水系のポンプ停止、2、3号機の使用済み核燃料

のトラブルの早急な検証と再発防止策を報告するよう求めた。県などはトラブルのたに安全に対する意識の改善を東電に求め続けているが「東電の組織全体への浸透が十分である」とも述べた。

増田豊隆責任者（同事実）も「人為的なミスと考えている。冷却という非常に大事な機能で不安を与え、申し訳ない」と謝罪した。また、報道陣から安全意識向上の対策について質問され「会議やメッセージの発信などで社内には伝えている」と述べた。

福島第一原発で冷却機能が停止するトラブルが相次いだことを受け、県内の原発立地町の各首長は「住民の帰還意欲に影響する」として、再発防止を強く求めた。大熊町の渡辺利綱町長は「復興に向けた機運が盛り上がっている中で、作業のトラブルはないに越したことはない。帰還を目指す町民が不安を覚えかねず、最大の注意を払って作業を進めてほしい」と言葉を垂した。双葉町の伊沢史朗町長は「非常に重く受け止めている。厳しい環

境の中での作業などは後の祭りという懸念を抱いているが、緊張感を持って廃炉作業に当たるとともに原因を究明し、東京電力と協力企業が一体となって全力で再発防止に取り組んでほしい」と注文した。

来年四月の帰還開始を目標に掲げる富岡町の宮本皓一町長は「誠心で遺憾。安全・安心を脅かすものだ。何度も申し上げているが、さらなる再発防止と施設環境の改善を強く求める」と指摘した。

榎葉町の松本幸英町長は「町民の帰還が進んでいる中、人為ミスによる冷却機能の停止というトラブル発生は廃炉作業への不信と不安を抱くものだ。何度も申し上げているが、さらなる再発防止と施設環境の改善を強く求める」と指摘した。